

環境総合研究所が被害予想

大間原発(青森県大間町)で福島第1原発と同程度の事故が発生した場合、函館市の一部などで放射線量が毎時20ミリシーベルト超と、原子力規制委員会が1週間以内での一時移転を求める数値に達する可能性が必至だ。

環境総合研究所(東京)の検証で分かった。大間原発をめぐることは、建設を進める電源開発(東京)と国を相手取り、函館市が建設差し止めを求める訴訟を4月に起こす方針を示しており、市民から建設反対の声が強まるのは必至だ。(安藤健)

大間原発で福島第1レベルの事故が起きたら 函館 浪江町並み放射線量

夏は普通、南南西の風2ミ

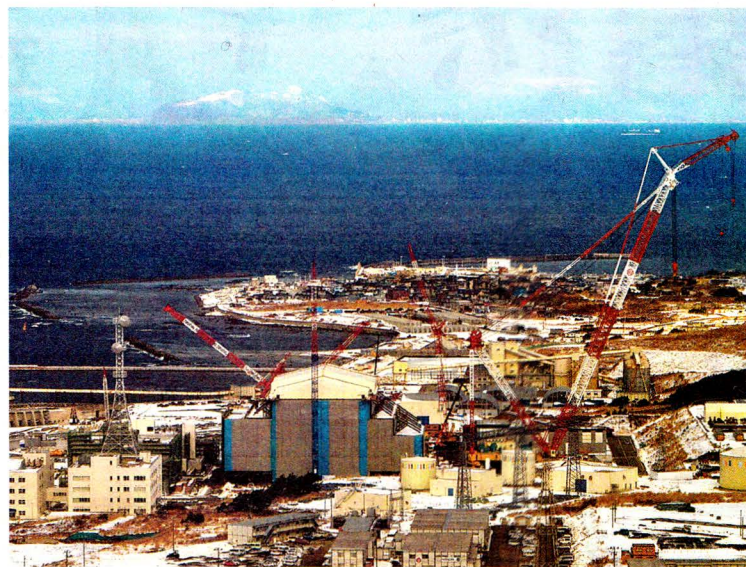
戸井で毎時20ミリシーベルト超

「事故の際に南から風が吹けば、函館市の一部は事故直後の福島県浪江町や飯館村並みの放射線量となる



青山貞一顧問

可能性がある」。シミュレーションを行った同研究所の青山貞一顧問(東京都大名大学教授)は、今なお大半の住民が避難生活を続ける二つの町村を例に、大間原発の危険性を指摘した。青山さんが開発したソフトは、福島第1原発事故と同程度の事故が起きた際、



建設が進む大間原発(手前)。津軽海峡を挟んで函館山が間近に見える—2月24日、本社ヘリから

放射性物質がどう拡散するかを風向(16方向)や風速(毎秒1〜8ミ)の違いに応じて予想できる。

道南の住民強まる不安

大間原発で事故が起きた場合、函館にも高濃度の放射性物質が到達するとの検証結果が明らかになったこと、道南の住民にあらためて不安が広がっている。

函館市の建設差し止め請求訴訟の訴状には、放射性物質の影響について「函館市の水産業、農業に壊滅的な被害を与え続ける」と記されている。

昨年4月、大間原発の即時工事中断などを求める決議を行った渡島管内漁協組合長会の山崎博康会長(北斗市)は「福島の風評被害は回復していない。チリ沖地震と北海道南西沖地震の津波を経験した道南から反対の声を上げるべきだ」と

原子力規制委員会が泊原発などを対象に2012年10月に公表したシミュレーションは、山や谷などの地形を反映していないが、青山さんのソフトは国土地理院の地形図情報を入力しており、「地表面にどの程度の放射性物質が到達するかを精密に推定できる」という。シミュレーション結果によると、風速2ミの風が南南西から吹けば、函館市東部の戸井地区で、東南東から吹けば松前町の白神岬周辺で、放射線量がそれぞれ毎時20〜50ミリシーベルトに達すると予想。南南東の風の場合は函館市街地でも、

福島県などで行われている除染の長期目標値の4倍を上回る毎時1ミリシーベルトの放射線量を見込んだ。風速2ミ程度の南南西や南南東の風は、夏場の津軽海峡付近で通常に観測されるという。函館市が大間原発訴訟の訴状に引用する京大原子炉実験所研究員小出裕章氏の想定によると、大間原発から函館市方向に風速2ミの風が吹き、約4時間後に放射線の雲が約30ミ先の函館市に到達した場合、「市民約8千人が急性死に至り、100%の人間が何らかのガンにより死亡する」としている。

が、「今はみんな(大間原発を)造ってほしくないと思ってるさ」と心配する。

マグロ漁師が暮らす汐首町内会の松田正志会長は「海の上で大間の漁師と協力している戸井のマグロ漁師は、原発について多くを話したくない」と、大間側に気を使う現状を明かす。ただ、全国ブランドになった戸井マグロを守りたいの思いは住民全員が抱えているといい、「地域で寄付を募り、函館市の訴訟を支援したい」と準備する。

戸井地区に隣接する丘陵地帯に広がる畑や牧草地はまだ一面、雪に覆われている。赤坂町でナガイモや大根などの低農薬栽培を手掛ける金子周治さん(73)は「福島の事故であれだけ勉強しながら、国はなぜ原発にしがみつくなのかと憤る。長女が嫁いだ福島県を昨年訪れ、3人の孫が通う小学校で聞いた校長の「3年ぶりに外で運動会を開けてうれしい」との言葉が忘れられない。「そんな状況になったら、どうしたらいいんだべな」

大間原発事故を想定した環境総合研究所のシミュレーション

